

コニカミノルタ株式会社

業績見直し修正に関する説明会

主な質問と回答

日 時： 2023年5月10日（水）14:00 ～ 14:45

方 式： オンライン／テレフォンカンファレンス

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

【経営方針、全社業績について】

Q. 事業の選択と集中について、それぞれの事業について幅広くコニカミノルタがベストオーナーなのかという視点で検討しているという理解で良いでしょうか？

A. 基本的にそのご理解で結構です。

Q. プレジジョンメディシンや画像 IoT で減損を計上するなど、新規事業に対する過去の投資が収益に結びついていない印象がありますが、社長として課題などどのようにお考えでしょうか？

A. オフィスプリントの減少が予測される中で新しい収益の柱の確立を目指し、新規事業の創出にチャレンジしてきました。ただし、事業を始めた時の前提が変わったかどうかの判断、また前提が変わった場合の計画の見直しは今後に向けて学ぶべきことと認識しています。これに懲りて将来に向けたチャレンジをやめるということはありませんが、新規事業については撤退基準、代替手段などを備えて、対処していきたいと考えています。

Q. 最終損益の赤字が4期続いています。事業の選択と集中をすることですが、国内の従業員の雇用に影響する施策は考えているのでしょうか？

A. 稼ぐ力を回復し収益を立て直すことに向けて、いろいろな施策を打っていきます。経費の削減、製造原価の低減などを進めますが、事業の選択と集中と無関係に従業員の雇用に影響を及ぼすような施策は予定していません。

- Q. コーポレートガバナンスについて、御社ではクローバック条項を採用していたと思いますが、大幅な減損の計上でこれが適用されるかどうか教えてください。
- A. クローバック条項はありますが、重大な会計上の誤りや不正による決算により、事後の修正が必要となった場合には検討の対象になるというものです。今回の減損処理については、意思決定やプロセスを含めて適切に行いました。その観点から条項に該当する事案ではありません。
- Q. 4期連続の当期赤字はコベナンツ条項に抵触すると理解していますが、その点について教えてください。
- A. ご指摘のようにコベナンツ条項に抵触しましたが、Waiver を頂きました。

【減損損失について】

- Q. 減損テストの結果、損失を計上したとのことですが、なぜこのタイミングで減損となったのか、背景を教えてください。
- A. IFRS 基準に則って、毎年決まったタイミング、年度末決算のプロセスで減損テストを行っています。今回も同様のプロセスを経たということです。
- Q. 減損後ののれんは、大きなものとしては、コニカミノルタ経営統合に伴うのれん、Radiant 社（センシング事業）の買収時ののれん、その他の部分があると認識していますが、今回減損した以外の部分の減損リスクはどのようにお考えですか？
- A. 年度毎の減損テストを実施しており、現時点ではリスクは認識していません。

【プレジジョンメディシンの減損について】

- Q. ニュースリリースで米国市場への上場についてアップデートがありましたが、状況に変化があったのでしょうか。
- A. これまで検討していた米国市場への上場に加え、他社への事業譲渡も含めた戦略的選択肢の検討を進めることになったことが変更点です。
- Q. プレジジョンメディシンの分野は研究開発の費用も掛かり、赤字でも長期間投資の上で花開くビジネスと理解していますが、参入時と今で状況が変わったのか、あるいは、もともと長期間の投資継続は難しかったのか、そのあたりについて教えてください。
- A. 競合企業が利益よりも売上拡大重視でデータを収集する施策を取り始めたことにより競争環境が変化し、成長に向けた投資が必要になった点が買収当時の想定からの変化点です。それ以前は黒字を計上したときもありましたから、競争環境の変化の影響が大きかったというのが当社の認識です。

以上